別紙１－１

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※　甲　第　　号

氏　　名　　立石　愛美

論　文　題　目

へき地医療における診療所看護師のコアとなる活動の検討

論文審査担当者

主　査　　名古屋大学教授　　林　登志雄

名古屋大学准教授　　青石　恵子

名古屋大学教授　　本田　育美

別紙１－２

論文審査の結果の要旨

世界のへき地では保健医療従事者の深刻な不足により、推定 10 億人が必要な医療サービスにアクセスできていない。地域住民への医療アクセス改善のために、へき地で働く保健医療従事者の教育やトレーニング、人材補充などの支援が行われているが、へき地医療が抱える課題を完全に解決した国はこれまでにない。日本のへき地医療の現場でも、看護職員の慢性的な不足および保健医療従事者の高齢化が報告されている。また、へき地医療拠点病院は、へき地診療所等への代診医の派遣や遠隔診療支援、保健医療従事者に対する研修等に加え、看護師の派遣も可能である。しかし、このような支援の前提となるへき地診療所看護師の活動の実態が不明であり、拠点病院から看護師が派遣されても診療所での活動が困難であると報告されている。そこで、本研究では日本のへき地医療における診療所看護師の育成を目指すために、研修や教育にて必要となるへき地診療所での看護師のコアとなる活動を検討した。へき地医療における看護師の活動に関する文献検討およびヒアリング調査、全国のへき地診療所看護師とへき地医療拠点病院のへき地診療所連携担当者への調査を実施した。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 日本におけるへき地診療所の看護師のコアとなる活動について網羅的にデータ収集を行い、活動を抽出した。へき地診療所における看護師の活動は基本的な看護実践にとどまらず、診療所のある地域を理解することや診療所の管理や運営、地域の行政にも関わり、数多くの多様な活動を行っていた。
2. へき地診療所看護師の活動実態として、活動の実施状況、重要だと認識されている活動の側面から明らかにした。『看護基礎実践』と『地域理解』に関する活動は看護師によりおおむね実施され、重要な活動であると認識されていた。『管理と運営』、『地域行政との連携』関する活動は、へき地診療所看護師にとって重要であると認識されているが実施されていない活動があった。これらの活動に関しては、へき地診療所看護師の活動の課題となることが示唆された。
3. へき地診療所看護師のコアとなる活動は『看護基礎実践』、『地域理解』、『管理と運営』、『地域行政との連携』の 4 カテゴリーから構成される 33 項目であることを明らかにした。

本研究では、へき地医療における診療所看護師のコアとなる活動を示す重要な知見を提供した。なお、本研究の一部は Nagoya Journal of Medical Science 誌に掲載予定(2020 年 5 月)である。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙２

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※第　　号	氏　名	立石 愛美
試験担当者	主査　名古屋大学教授 林　登志雄	名古屋大学准教授 青石　恵子	名古屋大学教授 本田　育美

（試験の結果の要旨）

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. 諸外国および日本のへき地医療の用語の定義について
2. 研究対象者のリクルート方法と職務背景について
3. へき地で働く保健医療従事者が少ないことの理由
4. へき地診療所看護師への支援に関して保健医療分野以外の対策について
5. 臨床への示唆及び今後の展望

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。